

活動テーマ

有機農業を核とした食と農のふるさと発見

神川町 阿久原地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

有機農業やオーガニック食品について地域活動を通して学び、「オーガニックビレッジ阿久原」について、幅広い世代や地域に対して情報発信を行う。

2 活動地域の現状

埼玉県北西、群馬県との県境に位置する神川町は、東京から80km圏に位置し、神流川と城峰山に抱かれた自然が美しい町である。利根川の支流である神流川には、「神流湖（下久保ダム）」がある。平将門伝説が伝えられる歴史ある町である。阿久原地区は旧「神泉村」であったが、高齢化率が50%を超え、過疎化が進み、遊休農地や空き家も増加している。児童数は減少し、中学校はすでに廃校となっており、小学校は全校生徒が16名である。一方、城峯公園の冬桜、神流湖（下久保ダム）、三波石峡、100年の森など、恵まれた観光資源が多数あり、有機農業が盛んな地域でもある。ヤマキ醸造、松田マヨネーズなど、歴史のある優良有機企業があることも特徴となっている。

3 活動内容

29年度の主な活動	
畑での草取り	イベント打ち合わせ
「神川発！オーガニックなタベ」農業とグリーンツーリズムに関するイベント開催	
神泉小学校運動会支援	
オーガニックツアー打ち合わせ	下久保ダム下見
桐華祭（学園祭）特製味噌だれじゃがバターの販売	
グリーンツーリズムモデルツアー開催	
ゆるキャラフェスティバル（新座市役所前広場）におけるPR	
ふるさと新座館前広場での餅つきイベント 味噌だれもちの提供	
手作り味噌講習会	



有機農業の実践について語る須賀利治氏

7/29（土）
13：30～
入場無料
事前申込不要

ふるさと支援隊イベント
神川発！オーガニックなタベ
-楽しく美味しく学ぶ有機農業とグリーンツーリズム-
日時：平成29年7月29日（土）13：30～18：00
開催場所：十文字学園女子大学 431教室

神川町とは？ 関東平野の西端、埼玉県の北西部に位置し、歴史ある金嶺神社、冬桜で有名な城峯公園、下久保ダムなど見どころたっぷりです

【基調講演1】石井清允（神泉の郷有機農業推進協議会 会長）
「農業と観光を手段とした町づくりをめざして」

【お笑い健康講座】やせ騎士（志木出身健康長寿会人）
「笑って学ぶオーガニック健康講座」

【基調講演2】須賀利治
（有機農家 農業生産法人有限会社「豆太郎」代表）
「有機農業を成功させる秘訣」

本参加者特典★
11月15日（白）開催、オーガニックモデルツアーに無料ご招待
（限定40名様）しょうゆ祭り体験、畑、冬桜、下久保ダム見学他
2名標準の試食、無料カフェツアー

主催：十文字学園女子大学生活環境研究所
お問い合わせ：048-260-7673（室野）
協力：新座市 経済振興課、観光推進課
ふるさとと野火止用水を育む会（HUG ネット）



神泉小学校の運動会で地元の伝統競技に参加する学生



有機大豆をつかった「醤油絞り体験」木の板を押して醤油を絞り出す



下久保ダムではエレベーターで下まで降り、職員さんの解説に耳を傾ける。前日の雨のおかげでダイナミックな放水を見ることができて参加者は大喜び。右は城峯公園から見た下久保ダム。



商店会との共催で開催した「チャリティー餅つき大会」では特製味噌だれ餅を提供



大学近くの町内会で2年連続で開催している「有機大豆を使った味噌づくり教室」

4 成果

①グリーンツーリズムの試行

活動最終年度ということで、一つの成果として「グリーンツーリズムモデルツアー」を実施した。新座市周辺地域の高齢者を中心に、農業に携わっている女性グループや家族連れなど40名が参加した。高齢者が多かったものの、幅広い世代が参加し、高い評価を得ることができた。アンケートの結果から「埼玉を再発見した」「もっと知りたい」「もう一度ゆっくり来てみたい」「少し高くても参加したい」などといった声が聞かれ、観光としてのオーガニックツアーの可能性を確信した。

②有機味噌の活用

昨年から利用している手作り味噌の評価は非常に高く、今年度も地域の方たちの強い希望により手作り味噌講習会を開催し、好評を博した。味噌だれを利用したイベントも情報発信の方法として有効である。市販の味噌とは味がまったく違うことから、できるだけ味噌を食べてもらう機会をイベントなどで作っていくことが知名度を上げることにつながることが明らかとなった。

③幅広い世代での地域間交流の実現

今年度は神泉小学校の運動会支援活動に、学生だけでなく、新座で地域活動を行う高齢者も参加し、幅広い世代での交流が実現した。またグリーンツーリズムモデルツアーでは小学生から80代まで、親子連れや女性グループなど多様な参加者を得ることができた。ツアーには、初年度とその翌年度の活動で、新座と神泉の農業女性グループによる「お料理交流会」を開催した際に参加してくれたメンバーが数名参加した。数年にわたる神川での活動につながり、広がりを見せていることがわかった。

④情報発信

例年のように地域のイベントや学園祭における情報発信は恒例となり定着してきた。また初めての試みであった「グリーンツーリズムモデルツアー」では「埼玉を再発見した」「同じ埼玉でこんな素敵などころがあったなんて」という意見もあり、実際に現地を見てもらうことの効果を実感した。

また、今年度は読売新聞に折り込まれているタウン誌にふるさと支援隊に関わる記事を数回掲載し、広く情報を発信できた。またこれを利用してツアー参加者の一部を公募したことも有効な情報発信となった。

5 課題

4年目でようやくグリーンツーリズムモデルツアーの試行まで進めることができたが、これを商業ベースで運用できるようにすることが今後の課題となる。新座からのツアーは距離も時間も適当で、手軽である点も好評であったが、内容を詰め込みすぎて、特に高齢者からは、もっとゆっくり見たいといった要望もあった。

年齢や性別などによりニーズがことなることから、今後は対象を絞ってテーマを決めたツアーの実現をめざしたい。

6 次年度以降の計画

4年間の活動を通じて、神川と新座との地域間交流が進み、グリーンツーリズムモデルツアーを1つの成果として実現することができた。県からの補助期間は終了するが、今後も神泉での活動を継続し、神泉の魅力を発信していけるような企画を実現していきたいと考えている。



地域の
スマイル

十文字学園女子大学による地域連携⑦



マスコットキャラクター
「プラスちゃん」

「ふるさと支援隊」(中山間部支援活動) 旧神泉村(児玉郡神川町)でオーガニックモデルツアーを開催!

十文字学園女子大学地域連携ボランティアサークル「ソウキリンくらぶ」が、埼玉県最北部、群馬県との県境にある旧「神泉村」(現神川町)で活動を始めて6年目となります。この4年間は「有機農業を核とした食と農のふるさと発見」をテーマに有機大豆の栽培、味噌づくり、味噌をつかったレシピ開発、小学校支援活動などを行ってきました。

9月30日(土)には、神泉小学校の運動会の支援活動を行いました。全校生徒16名とい



パン食い競走で賞品をゲット



「種こがし」に挑戦 地方の方に知られて

う小さな小学校では、地域の人たちも参加する手作り運動会が例年行われています。地元の城峯山に平将門が隠れ住んだという伝説にちなんだ「将門太鼓」でスタート。昔ながらの「パン食い競走」、古くから地元に残る「種こがし」など、楽しい競技が続き、学生たちもスタッフとして、また出場者として秋の一日を楽しんでいました。(文・写真/十文字学園女子大学 人間生活部児童教育学科教授 星野敦子)



昨年の味噌づくりの様子



大豆畑での草取り

11月19日(日)には、ふるさと支援隊活動の集大成として、オーガニックモデルツアー「紅葉と冬桜の神川でオーガニックな秋の日を!」を開催します。旅程は以下の通りです。

- 8:30 十文字学園女子大学(新座)出発(関越自動車道経由 本庄児玉IC)
- ◆ヤマキ醸造本社工場着「醤油搾り体験」
- ◆「紫水庵」にてオーガニックランチ
- ◆石井清允さん管理の有機農園 ミニ白菜の収穫
- ◆「下久保ダム(神流湖)」…利根川水系2番目の大型ダム
今日は特別にエレベーターでダムの下部に降りて見学します
- ◆紅葉と冬桜咲く「城峯公園」散策
- ◆ヤマキ醸造工場直売所にて休憩・買い物
- 19:00 十文字学園女子大学(新座)到着予定

本ツアーに10名様をご招待いたします。ランチ代(2,000円)のみ自己負担となります。お申し込みはメールで以下のアドレスに「氏名・性別・年齢・ご住所・連絡先(携帯番号など)」を明記のうえお申し込みください。開催日が差し迫っているため、メール連絡が取れる方のみお願いいたします。
hoshinoa@fujonji-u.ac.jp (担当:星野)



『スマイルよみうり』2017年11月号に「ふるさと支援隊活動」の記事を掲載
神泉小学校の運動会支援、味噌づくり、グリーンツーリズムモデルツアーの参加者募集など